

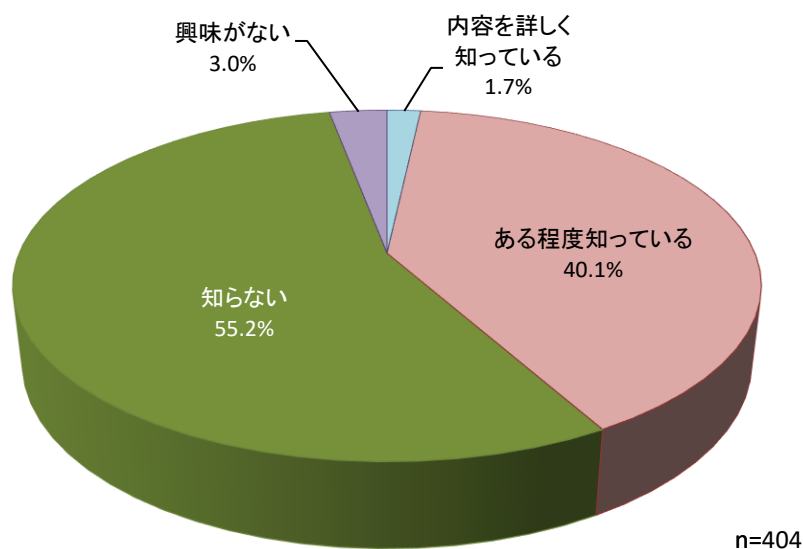
## 1 1. 治水・雨水対策について

### (1) 総合治水・雨水対策の認知度

◇ 「知らない」が5割半ば

問37	宇都宮市による河川や下水道雨水幹線の整備のほか、市民・企業による田んぼダムや雨水貯留施設の設置など、官民が連携して様々な取組を行っていることを知っていますか。(○は1つ)	n=404
1	内容を詳しく知っている	1.7%
2	ある程度知っている	40.1%
3	知らない	55.2%
4	興味がない	3.0%
	(無回答)	0.0%

<図IV-11-1>全体



総合治水・雨水対策の認知度については、「知らない」が55.2%で最も高く、次いで「ある程度知っている」が40.1%であった。(図IV-11-1)

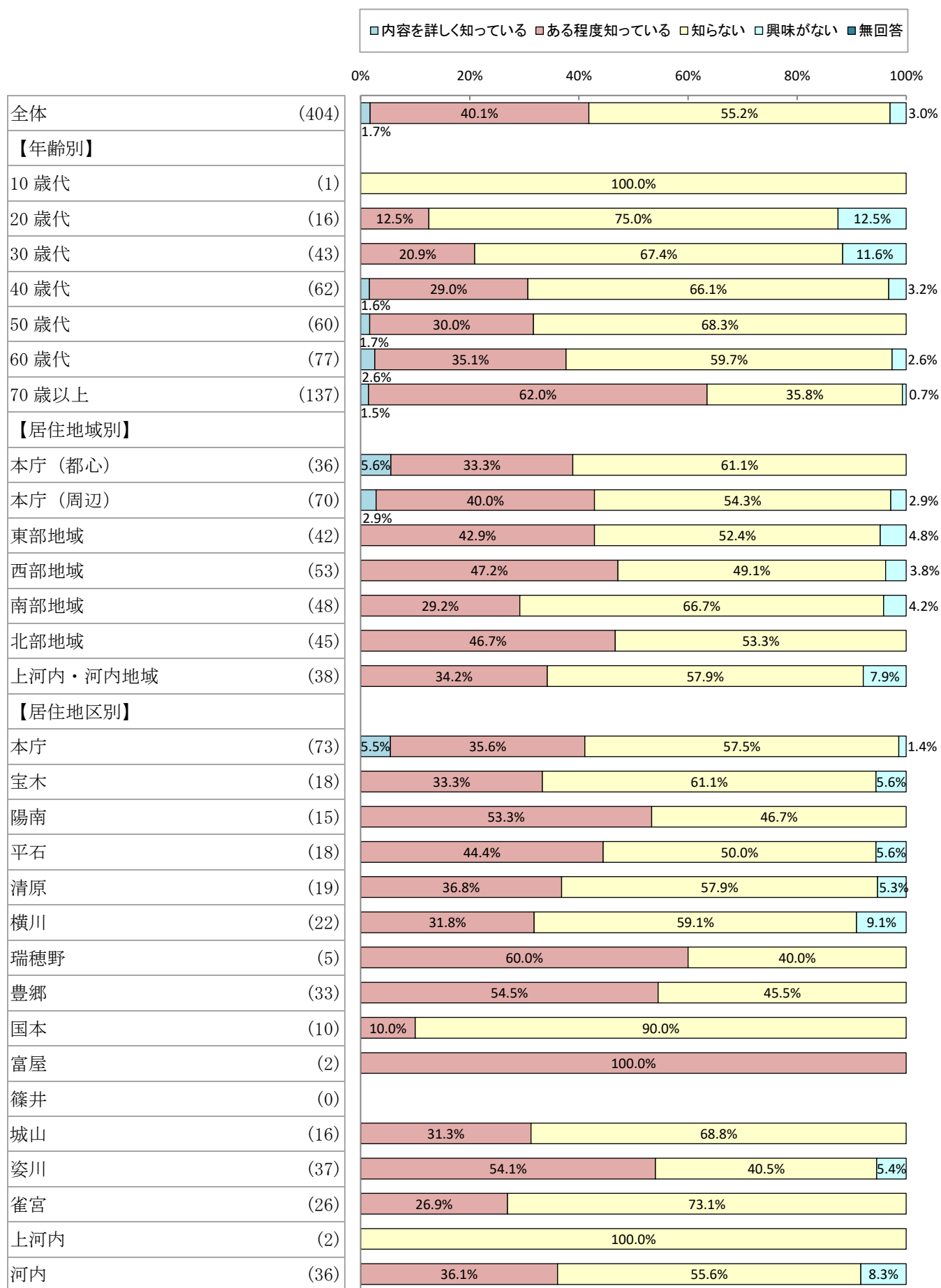
#### <参考>

年齢別で見ると、「知らない」は<10歳代>が100.0%、<20歳代>が75.0%であった。「ある程度知っている」は<70歳以上>が62.0%で最も高く、次いで<60歳代>が35.1%であった。(図IV-11-2)

居住地域別で見ると、「知らない」は、<南部地域>が66.7%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が61.1%であった。「ある程度知っている」は、<西部地域>が47.2%で最も高く、次いで<北部地域>が46.7%であった。(図IV-11-2)

居住地区別で見ると、「知らない」は、<上河内>が100.0%、<国本>が90.0%であった。「ある程度知っている」は<富屋>が100.0%、<瑞穂野>が60.0%であった。(図IV-11-2)

<図IV-11-2> 年齢別／居住地域・地区別

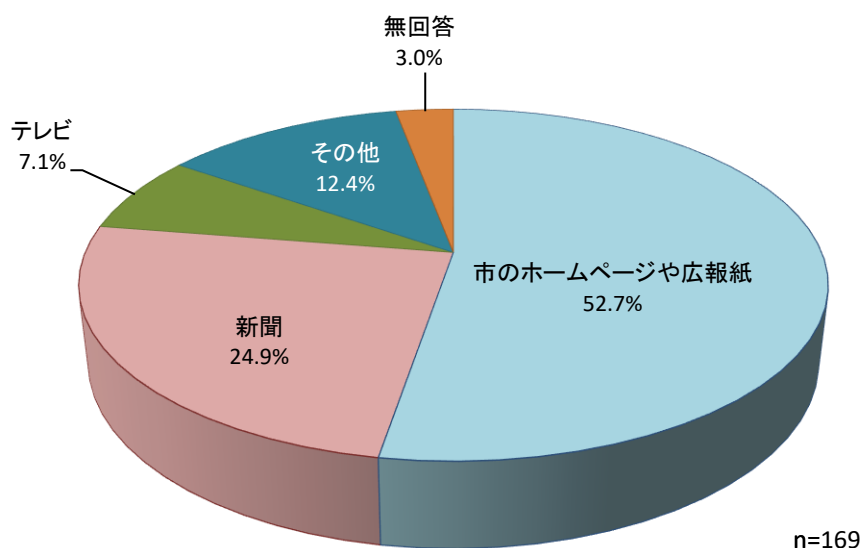


(2) 総合治水・雨水対策をどこで知ったり聞いたりしたか

◇ 「市のホームページや広報紙」が5割強

問38	問37で「1 内容を詳しく知っている」または「2 ある程度知っている」と回答した方にお聞きします。宇都宮市の取組をどこで知ったり聞いたりしましたか。	(○は1つ)	n=169
1	市のホームページや広報紙		52.7%
2	新聞		24.9%
3	テレビ		7.1%
4	X (旧 Twitter) や YouTube などのSNS		0.0%
5	その他		12.4%
	(無回答)		3.0%

<図IV-11-3>全体



総合治水・雨水対策をどこで知ったり聞いたりしたかについては、「市のホームページや広報紙」が 52.7% で最も高く、次いで「新聞」が 24.9% であった。(図IV-11-3)

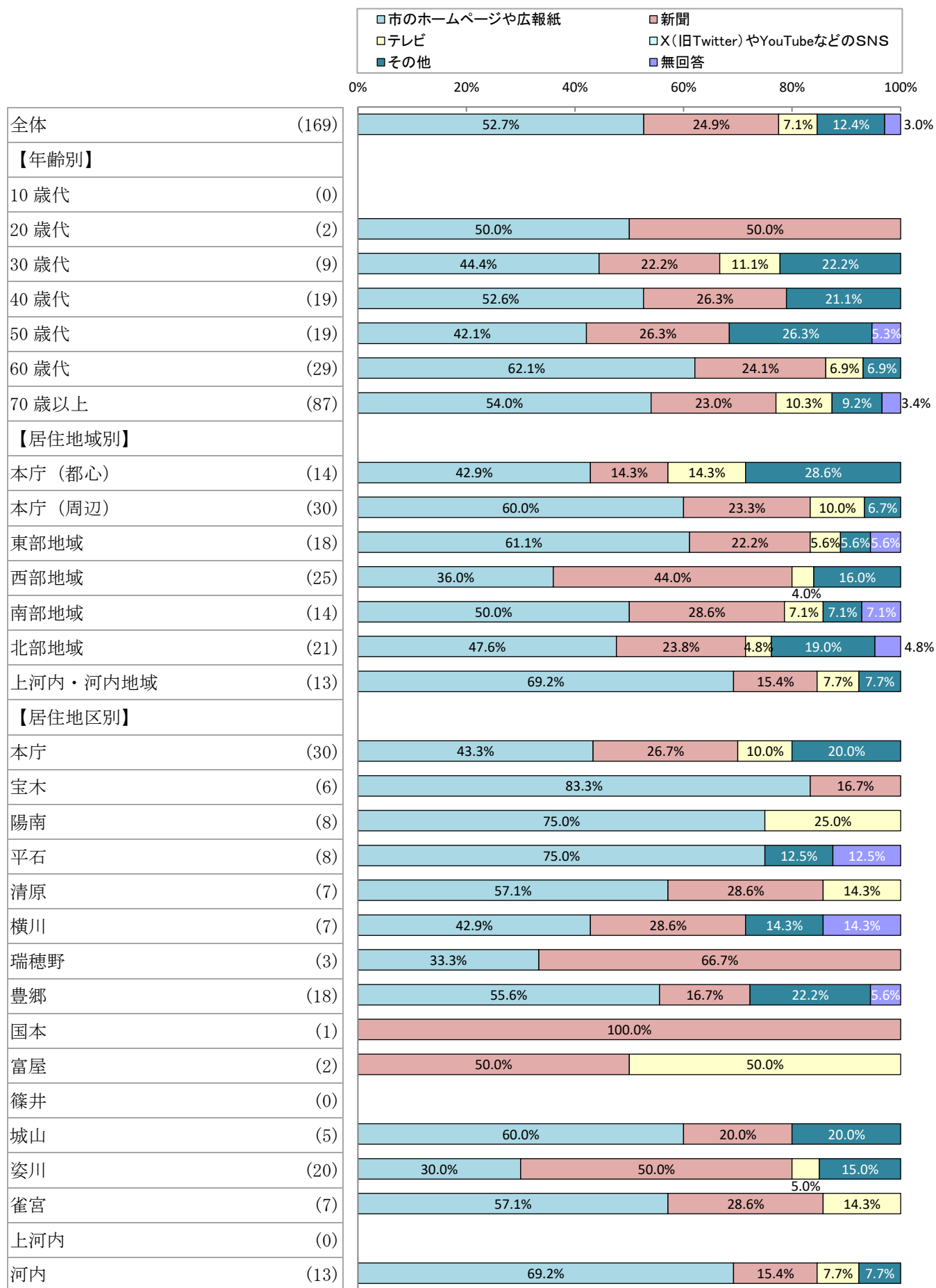
<参考>

年齢別で見ると、「市のホームページや広報紙」は<60歳代>が 62.1% で最も高く、次いで<70歳以上>が 54.0% であった。「新聞」は<20歳代>が 50.0% で最も高く、次いで<40歳代><50歳代>が 26.3% であった。(図IV-11-4)

居住地域別で見ると、「市のホームページや広報紙」は、<上河内・河内地域>が 69.2% で最も高く、次いで<東部地域>が 61.1% であった。「新聞」は、<西部地域>が 44.0% で最も高く、次いで<南部地域>が 28.6% であった。(図IV-11-4)

居住地区別で見ると、「市のホームページや広報紙」は、<宝木>が 83.3% で最も高く、次いで<陽南><平石>が 75.0% であった。「新聞」は<国本>が 100.0%、<瑞穂野>が 66.7% であった。(図IV-11-4)

<図IV-11-4>年齢別／居住地域・地区別

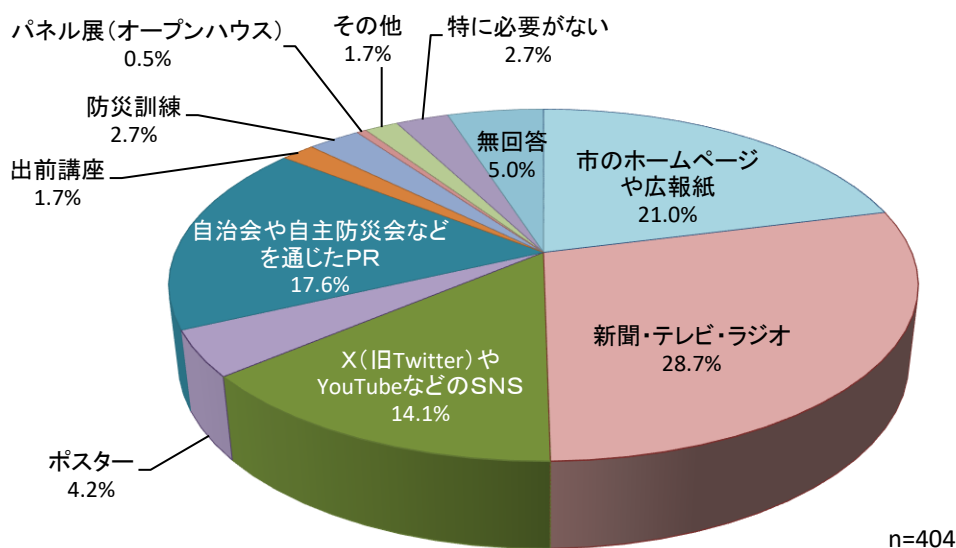


### (3) 総合治水・雨水対策の効果的な周知・啓発手法

#### ◇ 「新聞・テレビ・ラジオ」が約3割

問 3 9 宇都宮市の総合治水・雨水対策の取組を広めるために、どのような周知・啓発手法が効果的だと思いますか。(〇は1つ)		n=404
1	市のホームページや広報紙	21.0%
2	新聞・テレビ・ラジオ	28.7%
3	X (旧 Twitter) や YouTube などの SNS	14.1%
4	ポスター	4.2%
5	自治会や自主防災会などを通じた PR	17.6%
6	出前講座	1.7%
7	防災訓練	2.7%
8	パネル展 (オープンハウス)	0.5%
9	その他	1.7%
10	特に必要がない (無回答)	2.7% 5.0%

<図IV-11-5>全体



総合治水・雨水対策の効果的な周知・啓発手法については、「新聞・テレビ・ラジオ」が28.7%で最も高く、次いで「市のホームページや広報紙」が21.0%、「自治会や自主防災会などを通じたPR」が17.6%と続いている。(図IV-11-5)

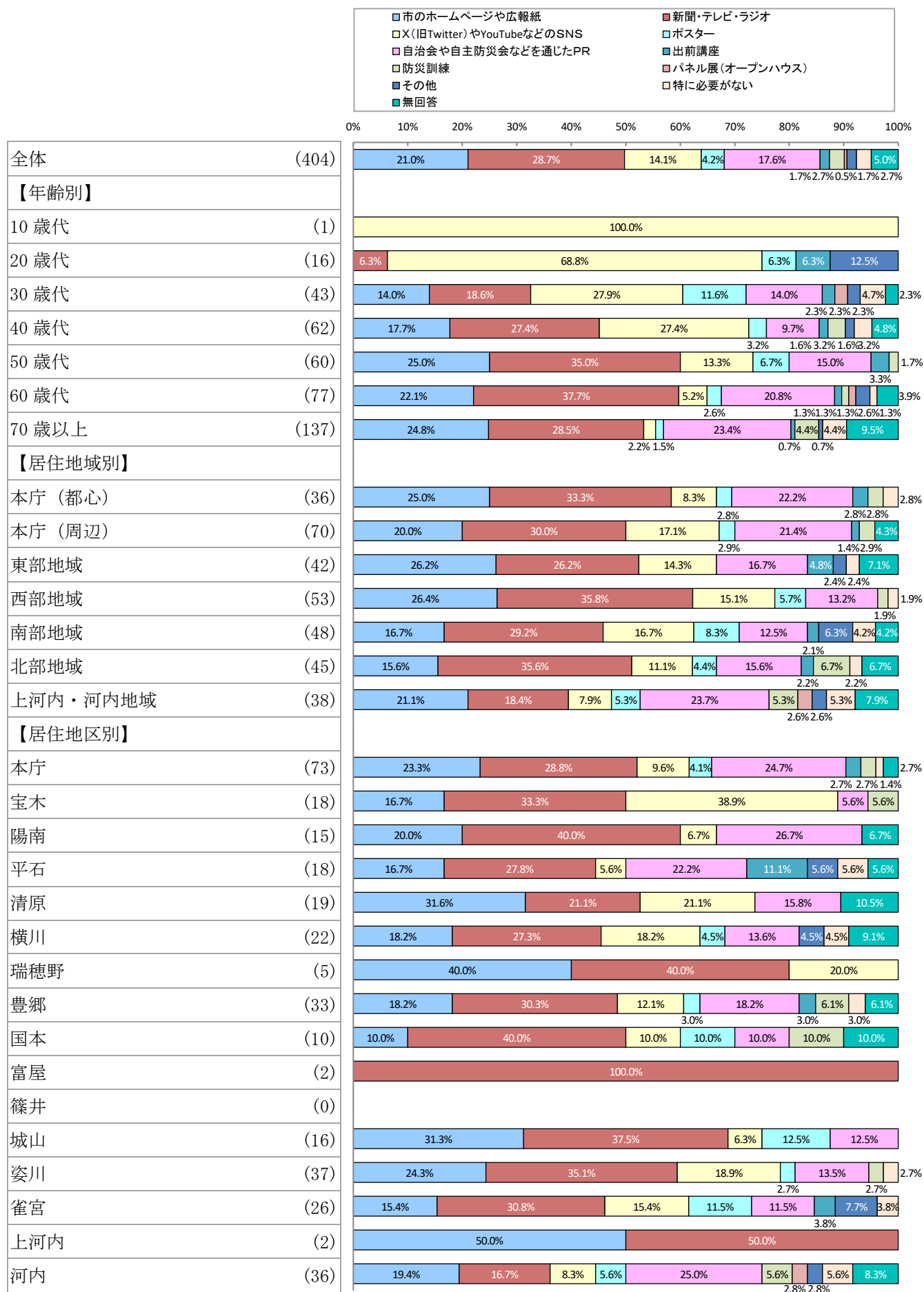
#### <参考>

年齢別でみると、「新聞・テレビ・ラジオ」は<60歳代>が37.7%で最も高く、次いで<50歳代>が35.0%であった。「市のホームページや広報紙」は<50歳代>が25.0%で最も高く、次いで<70歳以上>が24.8%であった。(図IV-11-6)

居住地域別でみると、「新聞・テレビ・ラジオ」は、<西部地域>が35.8%で最も高く、次いで<北部地域>が35.6%であった。「市のホームページや広報紙」は、<西部地域>が26.4%で最も高く、次いで<東部地域>が26.2%であった。(図IV-11-6)

居住地区別でみると、「新聞・テレビ・ラジオ」は、<富屋>が100.0%、<上河内>が50.0%であった。「市のホームページや広報紙」は<上河内>が50.0%、<瑞穂野>が40.0%であった。(図IV-11-6)

<図IV-11-6>年齢別／居住地域・地区別

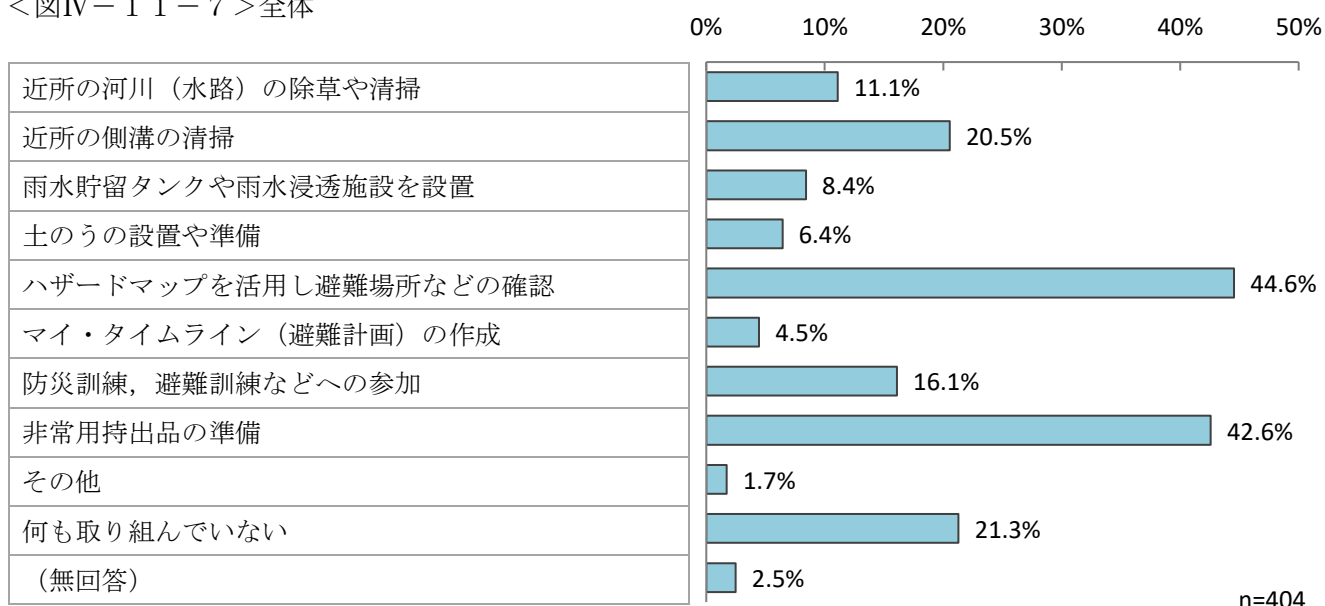


#### (4) 今後取り組んでいきたいと思っているもの

##### ◇ 「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」が4割半ば

問40	総合治水・雨水対策は行政と市民の皆さまの協働で取り組むことが大変重要となってきます。そこで、ご自身でできる身近な対策として実際に取り組んでいるもの、または、今後取り組んでいきたいと思っているものはありますか。 (〇はいくつでも)	n=404
1	近所の河川（水路）の除草や清掃	11.1%
2	近所の側溝の清掃	20.5%
3	雨水貯留タンクや雨水浸透施設を設置	8.4%
4	土のうの設置や準備	6.4%
5	ハザードマップを活用し避難場所などの確認	44.6%
6	マイ・タイムライン（避難計画）の作成	4.5%
7	防災訓練，避難訓練などへの参加	16.1%
8	非常用持出品の準備	42.6%
9	その他	1.7%
10	何も取り組んでいない (無回答)	21.3% 2.5%

<図IV-11-7>全体



ご自身でできる身近な対策として実際に取り組んでいるもの、または、今後取り組んでいきたいと思っているものについては、「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」が44.6%で最も高く、次いで「非常用持出品の準備」が42.6%、「何も取り組んでいない」が21.3%と続いている。(図IV-11-7)

#### <参考>

年齢別でみると、「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」は<10歳代>が100.0%、<40歳代>が56.5%であった。「非常用持出品の準備」は<10歳代>が100.0%、<30歳代>が51.2%であった。(図IV-11-8)

居住地域別でみると、「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」は、<南部地域>が54.2%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が50.0%であった。「非常用持出品の準備」は、<西部地域>が56.6%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が47.1%であった。(図IV-11-8)

居住地区別でみると、「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」は、<瑞穂野>が60.0%で最も高く、次いで<横川>が54.5%であった。「非常用持出品の準備」は<富屋><上河内>が100.0%、<姿川>が56.8%であった。(図IV-11-8)

<図IV-11-8>年齢別／居住地域・地区別

